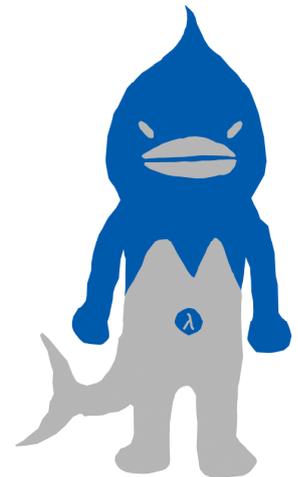


Ⅱ これまでの取組事例

津軽海峡交流圏形成につながる 取組の数々。

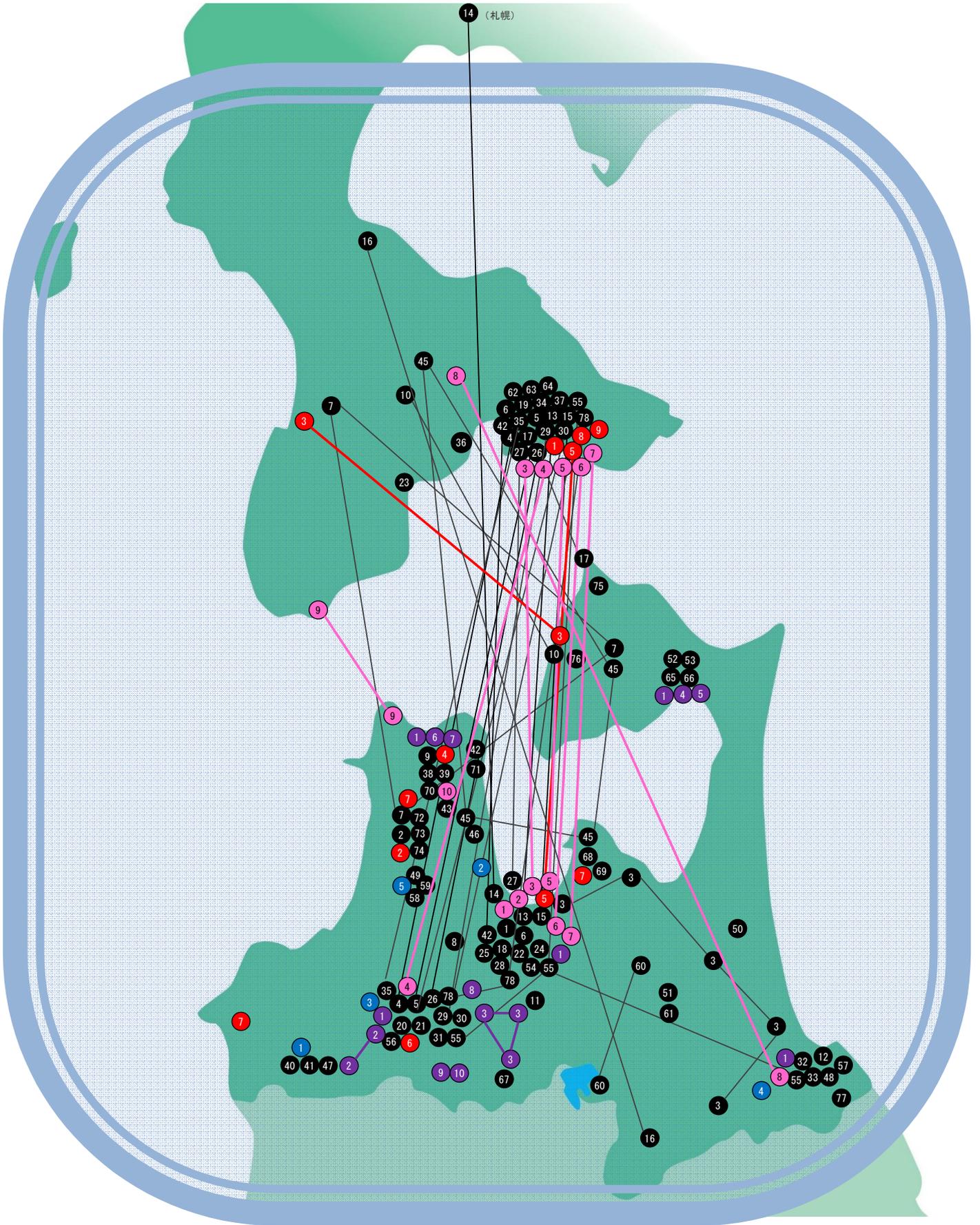
津軽海峡交流圏の形成に向けた
λ（ラムダ）プロジェクトに関する取組事例を
紹介します。



文中の〔提案番号〕欄には、関連があると考えられる過去の提案番号を記載しています。

- 平成 26 年度提案……………27 ページ～34 ページ
- 平成 25 年度提案……………35 ページ～42 ページ

津軽海峡交流圏形成に関連する主な取組事例



地図上の丸印は、以降で掲載されている取組が行われている場所を示しており、線で結ばれているものは2地域以上で連携した取組が行われていることを示しています。

【今年度の取組】 ● ラムダ作戦会議関係 ● 企業・団体等 ● 県 ● 市町村

【昨年度までの取組】 ●

■目次

今年度の取組事例

区分	地図	タイトル	ページ
津軽海峡交流圏ラムダ作戦会議	①	「津軽海峡交流圏公開生バトルIN函館」を函館市内で開催	51
		「(仮称)ラムダカフェ」設置の検討	53
津軽海峡交流圏ラムダ作戦会議委員		λ(ラムダ)プロジェクトシンボルキャラクター「マギユロウ」誕生!	54
	②	奥津軽 明日はひとつになろう!	54
	③	津軽海峡でつながる 文化・芸能交流(北海道江差町と青森県佐井村)	56
	④	ABA「りんご娘の産地直送☆青森最高!」の放送、A-streamへの出演	57
	⑤	NHK「青函ラジオ～津軽海峡・春景色2015～」	57
	⑥	奥津軽いまべつ駅応援メッセージ	58
	⑦	青森県の新・ご当地グルメが続々デビュー!	58
	⑧	「新幹線ドミノ大会」への参加	59
	⑨	HAKODATEアカデミックリング2014への参加	59
企業・団体等	①	ウィーン菓子シュトラウス(青森市)が青函のコラボ商品として「カシスガレット」などを販売	60
	②	「あおもり×はこだてマルシェ」の開催	60
	③	青森商工会議所、函館商工会議所による会員事務所パートナーシップ構築懇談会の開催	60
	④	HAKODATE男爵倶楽部HOTEL&RESORTS(函館市)が白神酒造(弘前市)と共同開発した日本酒を発売	60
	⑤	東奥日報と北海道新聞による共同連載	61
	⑥	青森公立大学、公立はこだて未来大学による学術交流協定の締結	61
	⑦	函館大学、函館商業高等学校、青森商業高等学校による土産品開発に向けたワークショップの開催	61
	⑧	吉田屋(八戸市)が北斗市観光交流センターの軽飲食店舗の運営者に選定	61
	⑨	あおもり松前街道推進協議会によるイベント	61
	⑩	A-project(青森公立大学の学生団体)による「今別レポート」の提案	61

区分		タイトル	ページ
行政(県)		λ(ラムダ)プロジェクト加速化事業	62
		北海道新幹線開業カウントダウン事業	62
		青い森鉄道が運ぶ沿線魅力戦略事業	62
		① 白神体感自然歩道整備事業	62
		食品工場生産性改善普及事業	62
		青森の食のコミュニティ展開事業	63
		グリーン・ツーリズム新規需要創出事業	63
		青森県・函館デスティネーションキャンペーン推進事業	63
		青函広域観光連携事業	63
		青函圏サイクル・ツーリズム推進事業	63
		東南アジア誘客促進事業	63
		次世代自動車活用促進事業	64
		② 東青地域アクティビティ推進事業	64
		③ 雪を逆手に冬を楽しむ中南観光推進事業	64
		④ 三八地域ぐれっとめぐる広域観光事業	64
	⑤ 西北地域「おもてなし力」パワーアップ事業	64	
行政(市町村)		① 青函圏・みなみ北海道連絡会議への参加	65
		② 白神山地活性化実行委員会事業	65
		③ 津軽南地域誘客拡大プロモーション事業	65
		④ あおもり10市大祭典inむつ	65
		⑤ 下北半島地域広域パンフレット作成	65
		⑥ 奥津軽いまべつ駅開業PRキャラバン事業	65
		⑦ 情報発信強化事業	66
		⑧ 更なる交流人口獲得のための藤崎町観光コンテンツ整備事業	66
		⑨ みんなが集う大鰐温泉駅リニューアル事業	66
		⑩ おもてなし足湯整備事業	66

昨年度までの取組事例

区分	地図	タイトル	ページ
津軽海峡交流圏ラムダ作戦会議	①	「青森県津軽海峡交流圏ラムダ作戦会議 公開ナマ作戦会議～北海道新幹線開業まであと2年 ～津軽海峡交流圏を盛り上げよう！」を青森市内で開催	67
津軽海峡交流圏ラムダ作戦会議委員		「津軽海峡マグロ女子会」が発足	67
	②	「奥津軽トレイル」の開発	67
	③	青い森鉄道のプロモーション	67
	④	弘前路地裏探偵団が函館市の探偵団にのれん分け	67
	⑤	学園都市ひろさき高等教育機関コンソーシアムとキャンパス・コンソーシアム函館が連携	67
	⑥	青函の旅行商品の造成	68
		λ(ラムダ)プロジェクトシンボルキャラクターの制作	68
	⑦	下北・津軽・檜山のひば連携	68
	⑧	「津軽でつながる半島のじかん」の開催	68
	⑨	奥津軽「駅からサイクリング」お試しツアーの開催	68
	⑩	佐井村と道南地域との交流・連携を目的とした観光モデルコースの検討	68
	⑪	自然を生かした遊びづくり	69
⑪	マタギをテーマとした資料館をオープン	69	
⑫	着地型体験ツアー等の造成	69	
		県産ひば材を使った青い森鉄道のキャラクター・モーリーグッズの作成	69

区分	地図	タイトル	ページ
企業・団体等	13	青森商工会議所・函館商工会議所によるパートナーシップ支援	70
	14	北洋銀行・青森銀行の連携	70
	78	みちのく銀行・弘前商工会議所・函館商工会議所による「津軽海峡観光クラスター会議」の設立	70
	15	みちのく銀行による「津軽海峡食景色 青森・函館商談会」の開催	70
		北海道銀行・東北地銀10銀行の業務提携を締結	70
	16	服部醸造(八雲町)が青森県産の乾燥にんにくを使用した「脇屋シェフのにんにく醤油」を製造・発売	70
	17	大間・函館航路に新造船「大函丸」就航	70
	18	青森地域社会研究所が『月刊れぢおん青森』で特集「新時代における津軽海峡交流圏」を展開	71
	19	東洋社(青森市)が函館市に開設した函館営業所での業務を開始	71
	20	ラグノオささき(弘前市)が、函館市の金森商船のプライベートブランドとして「金森レンガ倉庫のキャラメルガトー」を製造	71
	21	道南産の復刻米「マツマエ」を使って六花酒造(弘前市)が特別純米酒「ガスバリ」を醸造	71
	22	三浦醸造(青森市)が「青森りんごとマスカルポーネのフルーツスープ」を製造・販売	71
	23	瑠瞳(木古内町)があおもりシールドと木古内産はこだて和牛料理のコラボメニューを販売開始	71
	24	函館市のパン・洋菓子製造「パン・エスポワール」が青森市に進出	71
	14	青森銀行、北洋銀行、アークス、新日本スーパーマーケット協会が青函活性化支援で合意	71
	25	津軽海峡ブランド博の開催	72
	26	北星交通(弘前市)と函館タクシー(函館市)の連携	72
		(仮称)青森県・函館デスティネーションキャンペーンの開催決定	72
	27	青森・函館航路に新造船「はやぶさ」「ブルーマーメイド」が就航	72
	28	青函コラボスイーツ「ヒトナツノコイ」が販売開始	72
	29	FMアップルウェーブ(弘前市)とFMいるか(函館市)の共同企画実施	72
	30	FMいるか(函館市)と弘前のホテルで働くさくらレディー(弘前市旅館ホテル組合)との連携	73
	31	「街あるきガイドひろさき2014」に函館の情報を掲載	73
	32	はちのへ観光復興委員会による旅行商品等の開発	73
	33	三圏域連携懇談会による北海道からの誘客促進	73
	14	青森銀行、北洋銀行が連携し官民連携ファンドである「青函活性化ファンド」を設立	73
	34	昭和製菓(函館市)青函コラボスイーツ「青函プリン」を製造・販売	73
	35	函館西部地区バル実行委員会が「弘前バル街」に合わせて青森県を訪ねるツアーを企画	74
		青森県サイクル・ツーリズム推進協議会の設立	74
	36	日の出製麺(北斗市)が青森と函館のツインシティ提携25周年を記念した「函館しじみラーメン」を製造・販売	74

区分	地図	タイトル	ページ
行政(県)	37	道南の生徒への青森の魅力発信事業	75
		青森県基本計画「青森ブランド」普及促進事業	75
	38	北海道新幹線「奥津軽駅」開業プロモーション事業	75
	39	「奥津軽駅」二次交通等整備促進事業	75
		津軽海峡交流圏フリーパス構築事業	75
		λ(ラムダ)プロジェクト推進事業	75
		つながる県民プロジェクト事業	76
		縄文ムーブメント拡大事業	76
		「あおりポテンシャルビュー」構築事業	76
		青い森鉄道新需要創造事業	76
	40	白神山地21年目からの保全と活用推進プロジェクト事業	76
	41	白神山地エコツーリズム資源可能性調査事業	76
		青森県特別保証融資資金制度貸付金「未来を変える挑戦資金」	77
		新幹線開業効果活用型地域産業創出事業	77
		青函連携「食と観光」タイアップキャンペーン事業	77
		観光おもてなしブラッシュアップ事業	77
		観光マインドアップ事業	77
		青森県・函館誘客促進プロモーション事業	77
		東アジア・ASEAN向け情報番組制作事業	78
		青函広域観光推進事業	78
		青函サイクル・ツーリズム魅力発信事業	78
	42	アレコ青函ソウル共感力創造事業	78
	43	北海道新幹線「奥津軽駅」開業に向けた戦略展開事業	78
	44	北海道新幹線「奥津軽駅」開業効果に向けた観光拠点化モデル事業	78
	45	道南と津軽・夏泊・下北半島との連携促進事業	79
	46	上磯地域のグリーン・ブルー・ツーリズム促進支援事業	79
	47	白神の食めぐり観光促進事業	79
	48	三陸復興国立公園の新たな魅力発信事業	79
	49	北海道新幹線開業に向けた津軽半島北部エリア観光推進事業	79
	50	体感する小川原湖推進事業	79
	51	道南からの上北地域誘客促進事業	80
	52	下北「海の道」魅力発信事業	80
	53	台湾から来さまい下北推進事業	80

区分	地図	タイトル	ページ
行政 (市町村)	54	津軽海峡ブランド博開催事業	81
	55	青函圏観光都市会議	81
	56	北海道新幹線新函館開業対策事業	81
	57	種差海岸らくらくサイクル事業	81
	58	五所川原まるごとPRキャラバン事業	81
	59	津軽半島地域活性化促進事業	82
	60	七戸十和田奥入瀬シャトルバス運行事業	82
	61	十和田地産品PR活動隊	82
	62	函館グルメサーカスへの参加(三沢市)	82
	63	旅行エージェントへのプロモーション	82
	64	函館・東北チャリティプロモーションへの参加	82
	65	下北半島観光フォトスポットPR事業	83
	66	むつ市夜景観光推進事業	83
	67	平川市誘客促進助成金事業	83
	68	夏泊半島ブルーロードライド	83
	69	ハクチョウのまち再生	83
	70	まるごとPRキャラバン事業	83
	71	道の駅たいらだて「Oh!だいば」周辺散策マップ配布	84
	72	北海道新幹線開業対策津軽半島連携事業	84
	73	北海道新幹線開業対策にぎわう駅ナカビジネス創造事業	84
	74	北海道新幹線開業対策徐福来町伝説・津軽海峡連携PR事業	84
	62	函館グルメサーカスへの参加(七戸町)	84
	75	観光客誘客促進による地域活性化推進事業	84
	76	圏域内ネットワーク強化によるゴールデンルート構築事業	85
	77	町内巡回バス運行事業	85

今年度の取組事例

■青森県津軽海峡交流圏ラムダ作戦会議

○**New!!**「津軽海峡交流圏公開生バトル IN 函館」を函館市内で開催／平成 27 年 3 月 14 日

[提案番号 26-津軽海峡①、25-42]

交流圏イメージづくりチームの提案をもとに、青森県と道南地域のご当地グルメ・方言・ゆるキャラなど、それぞれの魅力をバトル形式でPRし、聴衆の方に判定してもらうイベントを開催した。

◆トークバトル：道南×青森 90分勝負「どっちがすごいでショー」

【レフリー】大西達也

	＜道南＞	＜青森＞
【強烈ゆるキャラ対決】	ずーしーほっきー (北斗市宣伝隊長) ※能登川亜美(北斗市役所)	VS マギユロウ (ラムダ)プロジェクトシンボルキャラクター) ※プレゼンター：高木まゆみ(また旅くらぶ)
【街の不思議・伝説対決】	田村昌弘 (だいもん路地裏探偵団)	VS 山内史子 (紀行作家・世界不思議ハンター/青森市出身)
【レアなご当地グルメ対決】	鈴木 慎也 (木古内町街おこし本気男・ 宿きたかい支配人)	VS 木村聡 (八戸せんべい汁研究所・ 八戸観光コンベンション協会)
【ふるさと愛対決】	北海道教育大学函館校 ユースフル函館	引き分け VS 青森公立大学 チーム「A-project」
【方言対決】	久米早苗 (津軽海峡マグロ女子会/江差町)	VS 島康子 (津軽海峡マグロ女子会/大間町)
【ご当地体操対決】	函館はやぶさPR隊 (函館YEG有志メンバー)	VS りんご娘 (青森県津軽地方在住の農業活性化アイドル)

【強烈ゆるキャラ対決】

ずーしーほっきー (能登川亜美)

VS マギユロウ (高木まゆみ)

プレゼン終了後、青森県と道南地域のどちらがよかったか (おもしろかったか) を聴衆が判定。



【街の不思議・伝説対決】田村昌弘 VS 山内史子 【レアなご当地グルメ対決】鈴木慎也 VS 木村聡



【ふるさと愛対決】

北海道教育大学函館校ユースフル函館

VS 青森公立大学チーム「A-project」



【方言対決】

久米早苗 VS 島康子



【ご当地体操対決】

函館はやぶさPR隊（いか踊り）

VS りんご娘（健康雪かき体操）



「新幹線に乗っちゃって」を皆で躍ろう！

（初公開）



○**New!!** 「（仮称）ラムダカフェ」設置の検討／平成26年～

交流圏創造チームにおいて、県内への観光客や旅行者が気軽に立ち寄ることができ、地元の情報提供を受けられることができる駅近郊の親切な個店を「（仮称）ラムダカフェ」と呼び、それらのネットワークを形成することで、旅行者等に県内（将来的には津軽海峡交流圏内）の周遊を促すことについて検討中。

【現時点でのアイデア等】

（1）「（仮称）ラムダカフェ」の定義・効果

- ・「（仮称）ラムダカフェ」とは、旅行者等にその地域の情報等を親切に提供する喫茶店、商店などをいう。
- ・ガイドブック等には載っていない地元の人だからこそ知っているお勧めスポットを紹介する。
- ・お土産などの情報提供を行ったり、旅行者と地元住民が交流する機会を提供することなどにより、地元の消費拡大や旅行者の満足度の向上につなげる。
- ・旅行者が次の目的地に向かう際には、次の「（仮称）ラムダカフェ」の案内をすることなどにより、安心感を与える。

（2）「（仮称）ラムダカフェ」の条件

- ・民間事業者である。（業種は問わない）
- ・旅行者に地元の情報を伝える熱意がある。
- ・地元の人及び旅行者が気軽に立ち寄れる雰囲気がある。
- ・コーヒーやお茶等を提供できる。（有料、無料は問わない）
- ・ちょっと休憩できるスペースがある。

（3）「（仮称）ラムダカフェ」の掘り起こし・認定

- ・当面、駅又は主要な観光施設周辺などを中心に、ラムダ作戦会議の委員が中心となって掘り起こしを行う。
- ・認定については、ラムダ作戦会議津軽海峡交流圏創造チーム会議内で行う。

（4）「（仮称）ラムダカフェ」の目印

- ・店頭に、「マギユロウ」をデザインした認定マークなど目印になるものを掲示する。

（例）



■青森県津軽海峡交流圏ラムダ作戦会議 委員

- New!!** λ（ラムダ）プロジェクトシンボルキャラクター「マギユロウ」誕生！／尾崎伸行委員
／平成 26 年 7 月 [提案番号 25-33]

λ（ラムダ）プロジェクトを進め、盛り上げていくためのシンボルキャラクターとして「マギユロウ」を誕生させた。

県では、オリジナルグッズの製作や行事・イベント等での着ぐるみ派遣などを実施中。

また、λ（ラムダ）プロジェクトに協賛いただける企業・団体等を募集し、「マギユロウ」のデザインを使用してもらうこととしている。平成 27 年 6 月現在、12 団体の協賛をいただいております、店舗前の看板設置や商品のデザインなどに活用されている。



【「マギユロウ」活用事例】みちのく銀行青森支店前の看板

- New!!** 奥津軽 明日はひとつになろう！／伊藤一弘委員・木谷敏雄委員／平成 25 年 6 月～
[提案番号 26-奥津軽①③]

平成 25 年より「ひばの香り高い奥津軽エコツーリズム」を提唱し、奥津軽のDNAの掘り起こし～青森ひば林及び森林鉄道軌道跡の調査、そして、トレッキングコース開発・モニターツアー開催などを行う一方でシンポジウムの実施などの啓蒙活動や情報発信をはじめ、「ガイド養成講座」「おもてなし研修」など奥津軽全域でおもてなしができる、受入ができる体制づくりに取り組む。

奥津軽トレイルコースも様々なトレッキングコースを巡ると約 85km に及ぶコースになることが見えてきた。平成 27 年度には、「奥津軽トレイル」の「青森ひば林と森林鉄道軌道跡トレッキング」プログラムの予約も入ってきており、北海道新幹線開業に向けて、奥津軽を満喫していただくコンテンツとして、育ちつつある。今後は、整備・保全に対しても積極的に取り組む予定である。

また、今年度、日本ロングトレイル協議会準会員として加盟。正会員を目指し、他地域との情報交換や情報発信にも一段と拍車をかけていきたい。

津軽森林鉄道の軌跡

日本の鉄道 明治5年(1872) 新橋-横浜

■森林軌道と森林鉄道

森林軌道⇒人力や牛馬でトローリーを動かす

明治37年(1904)和歌山県九度山

森林鉄道⇒機関車でトローリーを動かす

■日本初の森林鉄道

明治39年(1906)着工

明治42年(1909)本線開通

青森市沖館青森貯木場～金木町喜良市 延長67km

■国内最長路線

延長320km

昭和35年(1960)時点

津軽半島の沢へ毛細血管のように支線、分線が敷設

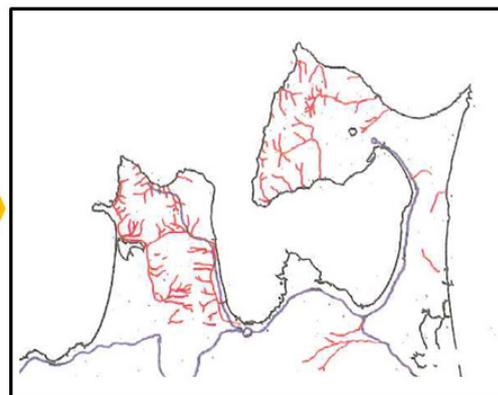
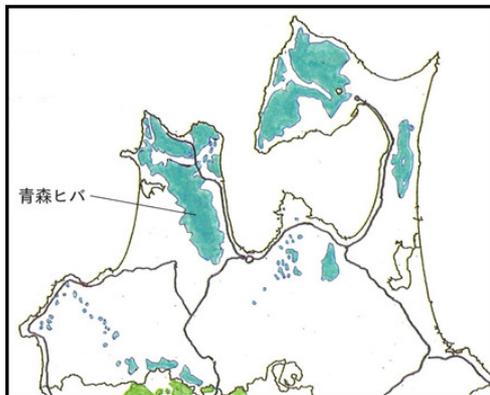
■昭和42年(1968)

トラック輸送へ転換

全線廃止 軌道撤去

林道開削

青森ひばの分布と津軽森林鉄道の軌跡



●青森ひば林を走る当時の森林鉄道



●現在も森にひっそりと佇む森林鉄道軌道跡（木橋・鉄橋）



●シンポジウム開催



●モニターツアー開催



●青森ひば精油商品開発



●ガイド養成講座開催



●奥津軽おもてなし講座開催



○**New!!**津軽海峡でつながる 文化・芸能交流（北海道江差町と青森県佐井村）／高木まゆみ委員／平成26年3月～

北海道道南地域との交流圏形成や連携・協力体制の強化を図り、これらの地域をつなぐ観光ルートを構築するため、観光事業者・関係者を招きモニターツアーを実施。佐井村と北海道江差町との交流が活発となり、平成27年3月に行われた福浦歌舞伎春の特別上演会に、江差町の有志20名が応援に駆け付け、江差町の郷土芸能を同舞台上で披露した。また、函館の旅行会社と連携して、歌舞伎鑑賞ツアーを企画し函館発着の一般募集ツアーを実施した。

津軽海峡でつながる 文化・芸能交流（北海道江差町と青森県佐井村）

江差町郷土芸能 餅つき囃子

江差町

大間崎
佐井村

かつて、両地域は北前船の寄港地でありつながりが深い

佐井村 福浦歌舞伎

江差追分

佐井村 矢越歌舞伎

佐井村の若手役場職員が中心となり、津軽海峡交流圏を盛り上げようと、ちんどん屋「夢作宣伝社」と一緒に、江差いにしえ街道を練り歩き、江差町と佐井村の交流をアピールしながら、漁村歌舞伎を宣伝した。

○**New!!** ABA「りんご娘の産地直送☆青森最高！」の放送、A-stream への出演／樋川由佳子委員／平成 27 年 3 月

2009 年～2013 年まで放送していた青森朝日放送「りんご娘の産地直送☆青森最高！」と、青森県庁広報課 A-Stream とコラボし、新しく北海道新幹線の駅として誕生する建設中の「奥津軽いまべつ駅」への探索の他、今別の民俗芸能「荒馬」を体験し、地元今別の魅力を再発見した。

- ・ 3 月 19 日（木）今別町ロケ（奥津軽いまべつ駅・役場カウントダウンボード探索、荒馬参加など）
- ・ 3 月 21 日（土）ABA「りんご娘の産地直送☆青森最高！」放送日
- ・ 3 月 24 日（火）A-Stream 生出演



○**New!!** NHK「青函ラジオ～津軽海峡・春景色 2015～」／樋川由佳子委員／平成 27 年 4 月 29 日

[提案番号 26-津軽海峡①]

NHK 青森放送局と函館放送局の共同企画として、開業まで一年を切った北海道新幹線がつなぐ青森と道南地域のさまざまな人たちを紹介するラジオ番組。

▼青函対決メンバー

- 1 回戦：「北斗夢学園桜組」VS「りんご娘」 ※地域アイドル
- 2 回戦：「土方歳三コンテスト優勝者」VS「ミスター跳人（ハネト）コンテスト優勝者」
- 3 回戦：「講談師 荒到夢形さん」VS「スコップ三味線世界チャンピオン サフロ吉崎さん」
- 4 回戦： コミュニティ FM「FM いるか」VS「FM アップルウェーブ」
- 5 回戦：「海老レレ憲一さん（ウクレレ漫談）」VS「大橋夕佳さん（お国言葉歌手）」

▼ゲスト 野月貴弘さん（SUPER BELL〜S）※列車の音を活かした音楽を数多く制作

▼ゲスト MC 三上枝織さん（若手声優 青森県北津軽郡出身）

▼MC 宮川香織キャスター（青森局 あっふるラジオ MC）

村上真吾 CA（函館局）

○**New!!** 奥津軽いまべつ駅応援メッセージ／樋川由佳子委員／平成 27 年 6 月

さくら野弘前店にて行われた北海道新幹線「奥津軽いまべつ駅」開業へ向けての応援メッセージへの参加。



○**New!!** 青森県の新・ご当地グルメが続々デビュー！／ヒロ中田委員／平成 27 年 3 月、7 月

[提案番号 25-24]

平成 25 年 6 月に青森県初の新・ご当地グルメとして「深浦マグロステーキ丼」がデビューした（深浦町内 7 店舗で提供中）。これに続き、平成 27 年 3 月に「平内ホタテ活御膳」がデビューし、平内町内 5 店舗で提供を開始するとともに、平成 27 年 7 月に「中泊メバルの刺身と煮付け膳」がデビューし、中泊町内 4 店舗で提供を開始した。

● 深浦マグロステーキ丼



● 平内ホタテ活御膳



● 中泊メバルの刺身と煮付け膳



○**New!!** 「新幹線ドミノ大会」への参加／森樹男委員／平成26年9月14日～17日

[提案番号 26-津軽海峡⑧、25-37]

北海道総合政策部交通政策局新幹線推進室主催の新幹線ドミノ大会に青森大学と弘前大学の学生6名が参加した。

YouTube 映像 <http://hokkaido-shinkansen-navi.jp/domino/>

○**New!!** HAKODATE アカデミックリング2014への参加／森樹男委員／平成26年11月8日

[提案番号 26-津軽海峡⑧、25-37]

キャンパスコンソーシアム函館が主催する「HAKODATE アカデミックリング2014」に、学園都市ひろさき高等教育機関コンソーシアムの学生委員会「いしてまい」が参加。ブース展示，ステージでのアピールなどを行い，弘前の魅力のアピールと函館の学生たちとの交流を深めた。



■企業・団体等

- New!!**ウィーン菓子シュトラウス（青森市）が青函のコラボ商品として「カシスガレット」などを販売／平成 26 年 11 月 [提案番号 26-津軽海峡⑨]

北海道新幹線開業を見据え、平成 25 年秋に発売したチーズケーキ「チーズボンブ」に続く第 2 弾として、青森市名産のカシスと北海道乳業（函館市）のクリームチーズを組み合わせた「カシスガレット」を発売。

- New!!**「あおもり×はこだてマルシェ」の開催／平成 26 年 11 月 [提案番号 25-38]

津軽海峡フェリーの企画で、青森と函館のつながりの輪を広げることを目的に A-FACTORY で開催。函館や道南地方の農産品や水産品など、食を中心に 12 店舗が出店した。

事業者の声

「地域貢献」を軸とした会社の発展を図るため、「プロジェクト T u g（タグ）」の一環として実施したもの。なお、このイベントは平成 27 年 9 月にも開催予定であり、今後も継続して実施していきたいと考えている。



- New!!**青森商工会議所、函館商工会議所による会員事務所パートナーシップ構築懇談会の開催／平成 26 年 9 月（第 3 回）、平成 27 年 3 月（第 4 回）

企業連携に向け、事業構想のプレゼンテーションや個別商談などを行った。

- ・第 3 回：函館側からのプレゼンテーションを実施（青函の企業 3 6 社が参加）
- ・第 4 回：青森側からのプレゼンテーションを実施（青函の企業 4 6 社が参加）

- New!!**HAKODATE 男爵倶楽部 HOTEL & RESORTS（函館市）が白神酒造（弘前市）と共同開発した日本酒を発売／平成 26 年 9 月 [提案番号 26-津軽海峡⑨]

ホテルのプライベートブランドラインナップの一つとして、白神酒造と共同開発。酒米には青森県産の「華想い」「華吹雪」などが使われている。

○**New!!**東奥日報と北海道新聞による共同連載／平成26年10月～平成27年3月

青函ツインシティ25周年を記念し、普段見過ごしがちなお互いの魅力を発信することを目的に、両紙がテーマ毎にそれぞれのお国自慢を掲載（全20回）。

【掲載テーマ】マギユロウv s ゴーシーほっきー
八甲田の紅葉v s 函館山の夜景
弘前城v s 五稜郭
八戸・館鼻岸壁朝市v s 函館朝市
十和田バラ焼きv s ハンバーガー（ラッキーピエロ）
ストーブ列車v s 函館ハイカラ號 ほか

○**New!!**青森公立大学、公立はこだて未来大学による学術交流協定の締結／平成26年11月

経済が専門の青森公立大学と、情報技術が専門の公立はこだて未来大学が連携することで「文理融合」をめざし、学生・教職員・研究者の交流や共同研究、シンポジウム、学術情報の交換などを行うこととした。

○**New!!**函館大学、函館商業高等学校、青森商業高等学校による土産品開発に向けたワークショップの開催／平成26年11月 [提案番号 26-津軽海峡⑨]

函館大学がすでに連携協定を結んでいる2つの高等学校と連携し、和菓子やスイーツを中心とした新商品を企画立案。

○**New!!**吉田屋（八戸市）が北斗市観光交流センターの軽飲食店舗の運営者に選定／平成27年3月

北海道新幹線新函館北斗駅に併設される北斗市観光交流センターの軽飲食店舗の運営者として吉田屋が選定された。欧米で流行する「Bento（弁当）カフェ」をコンセプトに、北斗市近隣の農産物などを用いた駅弁の製造・販売を行う予定。

○**New!!**あおもり松前街道推進協議会によるイベント／平成27年3月

藩政時代、松前藩主が津軽海峡を渡る際に、青森県・北海道両側で「のろし」を上げて連絡を取ったという歴史にちなみ、北海道新幹線「奥津軽いまべつ駅」開業に向けた気運醸成を目的に、開業1年前イベントとして青森県側で「のろし」を上げた。平成27年度は駅開業にあわせて、両側から「のろし」を上げるよう北海道にも呼びかける予定。

○**New!!**Aproject（青森公立大学の学生団体）による「今別レポート」の提案／平成27年6月 [提案番号 26-青森県らしさ①]

北海道新幹線開業に向けて、学生の視点で考えた町おこしとして、町民が町の魅力を再認識し、自らの手によるおもてなしの体制整備を行うことなどを今別町へ提案した。

■行政

<県>

○**New!!**λ（ラムダ）プロジェクト加速化事業（企画政策部）／平成27年度

[提案番号 26-津軽海峡③]

津軽海峡交流圏形成のエンジン役となる「津軽海峡交流圏ラムダ作戦会議」の運営や北海道庁との連絡調整、「マギユロウ」を活用した情報発信等を行うことにより、北海道新幹線開業に向けた本県と北海道との連携を強化するとともに、津軽海峡交流圏の認知度向上を図る。

○**New!!**北海道新幹線開業カウントダウン事業（企画政策部）／平成27年度

[提案番号 25-12]

北海道新幹線新青森～新函館北斗間の開業のPR及び新幹線を利用した様々な交流促進の観点から、関係者との共催による記念事業を開催する。また、県民等による北海道新幹線開業効果獲得に向けた取組を促すため、開業気運醸成のための取組を行うとともに、開業後の利用促進につなげるための情報発信を行う。

○**New!!**青い森鉄道が運ぶ沿線魅力戦略事業（企画政策部）／平成27年度 [提案番号 25-15]

平成27年度末の北海道新幹線開業に向けて、青い森鉄道の強みである長い路線を生かし、地域住民、県外からの観光客、将来を担う子どもたち等、様々なターゲットに対応した乗車のきっかけづくりや地域が主体となって利活用に取り組むきっかけづくりを戦略的に行う。

○**New!!**白神体感自然歩道整備事業（環境生活部）／平成27年度 [提案番号 26-健康①]

一般来訪者の入り込み者数の増加及び自然環境保全意識の向上を図り、白神山地の魅力・価値等を多くの方に体感してもらうため、遺産地域内のブナ林を気軽に体感できるコース（ブナ林コース）及び白神山地と共生しながら引き継がれてきた文化などを体感できるコース（里山コース）を整備する。

○**New!!**食品工場生産性改善普及事業（商工労働部）／平成27年度

平成27年度末の北海道新幹線開業によるビジネスチャンスを生かすため、食品工場を対象とした工場診断を行い、県内食料品製造業の生産性改善による競争力向上を集中的に支援する。

○**New!!**青森の食のコミュニティ展開事業（農林水産部）／平成 27 年度

県産品について、地域の食文化や作り手の技術・想いと人との関係性に着目した情報や、買う・食べる、といった体験プロセス全体に価値を感じられるようなストーリー性のある情報の発信を行うことでSNS等を活用したコミュニティを形成し、青森の食への愛着心や思い入れの高まりなどを喚起し、自主的なファン活動への進展を目指す。

○**New!!**グリーン・ツーリズム新規需要創出事業（農林水産部）／平成 27 年度

[提案番号 25-13]

グリーン・ツーリズム宿泊客の拡大に向け、国内では、北海道と首都圏等を重点地区とし、学校関係者や旅行エージェントの訪問によるプロモーション活動等を実施し、海外では、台湾とタイを重点地区としたプロモーション活動の他、新規開拓としてタイからの誘客に向けたマーケティング調査等を実施する。

○**New!!**青森県・函館デスティネーションキャンペーン推進事業（観光国際戦略局）／平成 27 年度

[提案番号 25-13]

北海道新幹線開業効果を最大限獲得し、その効果を持続させるため、J R グループ 6 社の協力の下で実施される青森県・函館デスティネーションキャンペーン（平成28年7月～9月）を推進するためのプロモーション活動を実施する。

○**New!!**青函広域観光連携事業（観光国際戦略局）／平成 27 年度

[提案番号 25-13]

北海道新幹線開業効果を獲得するため、北海道と連携し、共同で本県及び道南エリアの観光資源を首都圏等でPRするとともに、それぞれの地域において互いの情報発信を行い、地域間交流の増加を図る。

○**New!!**青函圏サイクル・ツーリズム推進事業（観光国際戦略局）／平成 27 年度

[提案番号 25-9]

北海道新幹線開業に向け、自然景観や食など本県の特徴を生かしたサイクル・ツーリズムを確立するとともに、道南エリアと連携した広域的な取組を展開し、新たな観光客の獲得及び観光客の周遊・滞在時間の延長を図る。

○**New!!**東南アジア誘客促進事業（観光国際戦略局）／平成 27 年度

[提案番号 25-13]

東南アジアでの本県の観光地としての知名度向上を図るため、東北や北海道と連携したPRを行うとともに、青森りんごの知名度を生かし、青森りんごフェアで観光PRを行い誘客を促進する。

○**New!!**次世代自動車活用促進事業（エネルギー総合対策局）／平成 27 年度

次世代自動車の普及促進を図るため、奥津軽いまべつ駅にEV・PHVを配備し、特定地域内における利活用モデルを構築するとともに、次世代自動車普及啓発セミナー等を開催する。

○**New!!**東青地域アクティビティ推進事業（東青地域県民局）／平成 27 年度

[提案番号 26-奥津軽③]

東青地域ならではの体験型観光の仕組み構築と、北海道新幹線開業効果の持続的な獲得に向け、フィッシング、トレッキング、サイクリングにおいて、重点的に地域の受入環境を整備する。

○**New!!**雪を逆手に冬を楽しむ中南観光推進事業（中南地域県民局）／平成 27 年度

[提案番号 25-36]

中南地域における冬のビッグコンテンツとして、日本初のスノーアートを制作するとともに冬や雪に特化した中南地域ならではの体験プログラムの造成や受入環境の整備を行い、これらを連動させることで、通年観光を確立し、地域全体の活性化を図る。

○**New!!**三八地域ぐれっとめぐる広域観光事業（三八地域県民局）／平成 27 年度

これまで個別に確立してきた三八地域の観光コンテンツ間の連携を進めることにより、単体でも魅力的な各コンテンツを周遊して三八地域の魅力をとことん楽しむ、新たな三八地域の旅のスタイルを確立する。

○**New!!**西北地域「おもてなし力」パワーアップ事業（西北地域県民局）／平成 27 年度

北海道新幹線や青森県・函館DCに向けて、まち歩きガイドのスキルアップ、ネットワーク化等を図るとともに、まち歩きコース内の案内板を検証し、対応方針を検討する。

<市町村>

- New!!**青函圏・みなみ北海道連絡会議への参加（青森市、弘前市、八戸市、むつ市、今別町）
／平成 26 年度～

北海道新幹線開業に向け、地域間連携を強化し、青函圏・みなみ北海道エリアの観光振興やサービス向上を図ることを目的として発足。参加市町村は、北海道側 42 市町村、青森県側 5 市町の合計 47 団体（平成 27 年 4 月現在）。平成 27 年 4 月 1 日よりホームページ「みなみ北海道・青森イベント information」を公開。また、月 1 回メールマガジンを発行している。

- New!!**白神山地活性化実行委員会事業（弘前市、西目屋村）／平成 27 年度

「函館・東北チャリティプロモーション 2015」、「函館・みなみ北海道グルメパーク in 仙台」、「さっぽろ雪まつり『北海道★食の広場』」に参加し、観光 PR、物産販売といった弘前市・西目屋村による連携プロモーション活動を実施する。

- New!!**津軽南地域誘客拡大プロモーション事業（黒石市、平川市、田舎館村）／平成 27 年度

黒石市、平川市、田舎館村で構成する津軽南地域新幹線開業効果研究会において、新幹線開業効果の享受と当地域への観光客誘致を促進するため、広域観光パンフを作成するとともに、首都圏、道南地域の旅行会社を訪問し、売り込みを行う。

- New!!**あおもり 10 市大祭典 in むつ（むつ市）／平成 27 年 9 月

東日本大震災からの復興を PR し、さらには落ち込んだ観光需要を喚起するため、県内にある 10 の市が連携し、それぞれの祭りや伝統芸能、食、観光情報などを一堂に集結させ、各地域の魅力を強力にアピールすることで県内外からの誘客を図り、県内の回遊と滞在を促進させることを目的にスタートした「あおもり 10 市大祭典」の第 4 回目をむつ市で開催する。

（実施主体は青森県市長会）

- New!!**下北半島地域広域パンフレット作成（むつ市）／平成 27 年度

むつ市・横浜町・大間町・東通村・風間浦村・佐井村の下北半島内 6 自治体の魅力を一体的に紹介する観光パンフレットを作成する。また、航路を活用した県内・道南地域からのアクセスも紹介することにより誘客促進を図る。

（事業主体は下北観光協議会）

- New!!**奥津軽いまべつ駅開業 PR キャラバン事業（今別町）／平成 27 年度

函館市をはじめ、首都圏や仙台市で PR キャラバンを実施し、イベントでの駅開業 PR や郷土芸能の「荒馬」を披露する。

○**New!!**情報発信強化事業（今別町）／平成 27 年度

今別町情報発信事業として、新青森駅構内の広告媒体への掲出や観光情報誌への掲載、奥津軽いまべつ駅開業CMのほか、公用車へのPRラッピングで情報発信を展開する。

○**New!!**更なる交流人口獲得のための藤崎町観光コンテンツ整備事業（藤崎町）／平成 27 年度

北海道新幹線開業や青森県・函館デスティネーションキャンペーンを見据えて、当町の観光コンテンツを磨き上げるとともに、青函圏交流を推進し更なる交流人口の獲得を目指す。

○**New!!**みんなが集う大鰐温泉駅リニューアル事業（大鰐町）／平成 27 年度

JR大鰐温泉駅構内のリニューアルを実施する。駅構内のスペースに、観光客向けの情報提供コーナーを新設し、町民が集う空間を併設する等の大幅なリニューアルを行い、賑わいを創出する。

観光客が道に迷うことなく大鰐の町を散策できるように、まち歩きをサポートするMAPを新規に作成する。

○**New!!**おもてなし足湯整備事業（大鰐町）／平成 27 年度

本町は「湯の郷・雪の郷・りんごの郷 おおわに」として温泉を観光の中心として位置づけているが、大鰐温泉駅を利用する観光客に「湯の郷」をよりPRするため、大鰐温泉駅前に足湯を整備し、観光客に気軽に温泉を楽しんでいただき、誘客促進を図る。

昨年度までの取組事例



■青森県津軽海峡交流圏ラムダ作戦会議

- 「青森県津軽海峡交流圏ラムダ作戦会議 公開ナマ作戦会議～北海道新幹線開業まであと2年 ～津軽海峡交流圏を盛り上げよう！」を青森市内で開催／平成26年3月15日

「マニアをターゲットに！（お酒、自転車、食等）」をテーマに、公開かつ参加型のチーム会議を行った。また、県内資源の可能性の発見とネットワークづくりのため、県産酒と食の組み合わせをティスティング、品評する「ラムダ実験室」を行った。

■青森県津軽海峡交流圏ラムダ作戦会議 委員

- 「津軽海峡マグロ女子会」が発足／島康子委員・高木まゆみ委員／平成26年3月～

[提案番号 25-42]

青森県と北海道南の女性たちが連携して街づくりを行う「津軽海峡マグロ女子会」が発足した。マグロ女子ならではの個性を最大限に活かしながら、かつ競争し競い合いながら、津軽海峡交流圏を盛り上げていく。

- 「奥津軽トレイル」の開発／伊藤一弘委員・木谷敏雄委員／平成25年度 [提案番号 25-1]

奥津軽トレイルルートの開発と受入体制の整備、及び観光商品（特産品）開発を実施した。

- 青い森鉄道のプロモーション／木谷敏雄委員／平成25年度 [提案番号 25-15]

「わ」の娘っこという地域を応援する女性たちをクローズアップした情報発信ツールの制作と、沿線での体験交流のプログラムを作成した。

- 弘前路地裏探偵団が函館市の探偵団にのれん分け／坂本崇委員／平成25年度

探偵姿で街の路地裏の秘密を解き明かしながら観光案内する「弘前路地裏探偵団」（鹿田智嵩団長）が、初めての“のれん分け”を函館市の「だいもん路地裏探偵団」に許す。

- 学園都市ひろさき高等教育機関コンソーシアムとキャンパス・コンソーシアム函館が連携／森樹男委員／平成25年度 [提案番号 25-37]

弘前市内の6大学が連携する「学園都市ひろさき高等教育機関コンソーシアム学生委員会・いしてまい」がHAKODATEアカデミックリンク2013に特別参加し、学生9人が活動状況などを報告した。

学園都市ひろさき高等教育機関コンソーシアムがキャンパス・コンソーシアム函館の田中邦明座長を招き、シンポジウムを開催した。

○青函の旅行商品の造成／向久保文一委員／平成 25 年度 [提案番号 25-13]

J R 東日本として青函に向けた首都圏発の旅行商品を造成し、発売している。青森、函館の 2 都市に宿泊するコースや、函館に 1 泊してフェリーで大間に渡るコースなど、青函デスティネーションキャンペーンを意識したコースづくりを行っている。

○λ（ラムダ）プロジェクトのシンボルキャラクターの制作／尾崎伸行委員／平成 26 年度

[提案番号 25-33]

津軽海峡交流圏形成に向けたλ（ラムダ）プロジェクトのシンボルキャラクターの制作を行った。

○下北・津軽・檜山のひば連携／島康子委員／平成 26 年度

[提案番号 25-1]

「ひば」サミットを開催し、交流しながら「ひば」の可能性について探っていく。

○「津軽でつながる半島のじかん」の開催／高木まゆみ委員／平成 26 年度 [提案番号 25-37]

9 月 21 日（日）～9 月 22 日（月）に、これまでの交流をさらに広げ、半島の未来を一緒に考える集いを開催した。（「半島の台所」半島マルシェ、「半島の手仕事」体験プログラム、「半島の遊び」、半島ワークショップなどを行う予定）

○奥津軽「駅からサイクリング」お試しツアーの開催／高木まゆみ委員／平成 26 年度

[提案番号 25-12]

元パラリンピック日本代表選手であり、自転車で日本や世界の大陸を走破した経験を持つ、マルチアスリート田中哲也氏の活躍と奥津軽いまべつ駅の知名度アップを図るためのサイクリングツアーを行った。

（実施日：7 月 21 日、集合：津軽今別駅（北海道新幹線奥津軽いまべつ駅）

○佐井村と道南地域との交流・連携を目的とした観光モデルコースの検討／高木まゆみ委員／平成 26 年度

[提案番号 25-37]

北海道道南地域の観光事業者・関係者と観光プログラムの商品化を検討した。

（平成 26 年 7 月 17 日（木）～18 日（金））

○自然を活かした遊びづくり／福士拓弥委員／平成 26 年度

[提案番号 25-2]

廃校の建物を活用してオープンした「お山のおもしえ学校」は、昔ながらの木造校舎を大切に保存し、そして、訪れた人が楽しくなるような場所を目指して開校されたものである。板張りの廊下や教室には、ところ狭しと昭和の時代の道具や農具等を数多く展示するほか、クレヨン画家孫内あつし氏のアトリエ、喫茶職員室では自家製麺手打ちそばや自家栽培のいちごを使用したいちご牛乳が人気メニューとなっている。また、お山のおもしえ学校は八甲田の南玄関口に位置しており、日本山岳ガイド協会認定登山ガイドによる通年を通した学校周辺での定期トレッキング（月 2 回）をはじめ、夏限定の南八甲田キャニオニングプログラム（7 月～9 月）といった自然体験プログラムを取り扱っている。2014 年からは、JTB のオプション旅行商品としても販売中。

○マタギをテーマとした資料館をオープン／福士拓弥委員／平成 26 年度 [提案番号 25-2]

お山のおもしえ学校のある黒石市大川原地区は、古くからマタギ伝説のある地域である。昨年から本格的に専門家の大学教授の協力を得て、大川原マタギを中心に北東北 3 県のマタギの歴史・文化の調査・研究を行っており、公的記録では遅くとも江戸時代初期に大川原にマタギがいた（青森県のマタギで有名な目屋マタギは江戸時代後期に誕生）とされている。そこで、当学校では 2014 年から本格的に大川原マタギに関わる事業を計画し、第 1 弾としてマタギをテーマとした資料館をオープン（平成 26 年 7 月）。その他、マタギに関わる様々な事業を長期で計画当中である。

※マタギたちは明治期頃になると、熊および鹿獲りのため地元の山以外に山形や新潟、北海道へ長期間の日程で遠征していた。

※マタギ＝北東北 3 県（青森、秋田、岩手）の山間に住み、ハンターや世間一般で言う猟師とは違い「マタギ独自の儀式・習俗をもつ猟師」のこと。

○着地型体験ツアー等の造成／町田直子委員／平成 26 年度

[提案番号 25-13]

漁業、農業者とのコラボによる体験ツアー、屋形船で八戸の食、夜景を堪能するツアー、鉄道を利活用した体験プログラム（青い森鉄道を利活用し、産直列車、歌声列車で体験プログラム）など、ビジネス客をターゲットに夜ツアー、朝ツアーを実施している。また、JR 観光アテンダント、種差海岸インフォメーションセンター運営、八戸の観光資源を利活用した八戸らしいお土産づくりに取り組んでいる。

○県産ひば材を使った青い森鉄道のキャラクター・モーリーグッズの作成／三津谷あゆみ委員
／平成 26 年度

[提案番号 25-1]

ひばの香りを活かした商品で、また、製作を今別町の業者に依頼していることから、先日、名称の決まった北海道新幹線「奥津軽いまべつ駅」をあわせてアピールし、青森ねぶた祭りで来県の観光客をターゲットに販売する予定。

■企業・団体等

○青森商工会議所・函館商工会議所によるパートナーシップ支援／平成 24 年度～

両商工会議所による「商品拡大」「販路拡大」「技術提携・連携」等の経済連携促進を目的として、青函パートナーシップによる事業提案を募集し、両地域の関心のある事業所に対してプレゼンテーション及び商談の場を提供するビジネスマッチング事業を実施している。

○北洋銀行・青森銀行の連携／平成 24 年 12 月～

北海道新幹線開業を見据え、産業及び地域振興に資する事業等の実施において連携・協力を行うことにより、両地域の経済、地域の活性化に寄与することを目的として、協定書を締結した。（A T M相互無料開放、両行取引先の交流促進、販路開拓支援等）

○みちのく銀行・弘前商工会議所・函館商工会議所による「津軽海峡観光クラスター会議」の設立／平成 23 年度～

北海道新幹線開業を見据え、観光を核とした地域経済活性化を実現するため、平成 23 年 4 月にみちのく銀行と弘前商工会議所、函館商工会議所による「津軽海峡観光クラスター会議」を設立し、互いの観光コンテンツを学ぶための「関係者ツアー」や互いの交流人口を増やすための「市民ツアー」や台湾での合同観光プロモーション等を実施した。

○みちのく銀行が「津軽海峡食景色 青森・函館商談会」を開催／平成 23 年度～

青森県と北海道南の生産・加工業者の販路拡大支援と地域活性化を目的に、首都圏において出展者と料理人・バイヤーとの試食商談会を 4 年連続で開催した。
有名料理人による青森と函館の食材を使用した試食メニューや、食の魅力を P R するとともに、食を通じて地元の元気をアピールした。（青森県との共催）

○北海道銀行・東北地銀 10 銀行が業務提携を締結／平成 25 年 3 月～

北海道新幹線開業を控え、東北地区と北海道地区との相互交流を多方面から積極的にサポートするとともに、東北・北海道地区をひとつの経済圏と捉え、地元銀行として連携を強化することで地域経済の発展に寄与する。

札幌市や首都圏において、「東北・北海道 6 次産業化ビジネスフォーラム」を開催し、東北全県と北海道の生産者、加工業者、販売業者が地域特産品の高付加価値化に向けた商談会を実施した。

（各地域の団体の交流・連携支援、相互地域への進出支援等）

○服部醸造（八雲町）が青森県産の乾燥にんにくを使用した「脇屋シェフのにんにく醤油」を製造・発売／平成 24 年～

青森県産の乾燥にんにくを詰めた瓶に、本醸造醤油を注いで香りに移した北海道新幹線開業記念コラボ商品として開発された。

○大間・函館航路に新造船「大函丸」が就航／平成 25 年 4 月～

平成 25 年 4 月に大間・函館航路に新造船「大函丸（だいかんまる）」が就航。所要時間は 90 分で、以前より 10 分短縮した。

○青森地域社会研究所が『月刊れちおん青森』で特集「新時代における津軽海峡交流圏」を展開／平成 25 年度～26 年度

（一財）青森地域社会研究所が、機関誌『月刊れちおん青森』で、特集記事「新時代における津軽海峡交流圏」を展開。交流の歴史、産業、経済、観光、津軽海峡ブランドなどに関する考察を積み重ね、津軽海峡経済圏形成の可能性について探った。

○東洋社（青森市）が函館市に開設した函館営業所での業務を開始／平成 25 年 6 月～

北海道新幹線開業を見据え、函館営業所を開設し、函館市内のホテルへのリネンサプライや業務用ユニホームのクリーニング・リースなどを行っている。

○ラグノオささき（弘前市）が函館市の金森商船のプライベートブランドとして「金森レンガ倉庫のキャラメルガトー」を製造／平成 25 年 7 月～

弘前・函館の両商工会議所のビジネスマッチングにより、金森倉庫の赤レンガをイメージしたお菓子の開発・製造を手掛けることとなったもの。

○道南産の復刻米「マツマエ」を使って六花酒造（弘前市）が特別純米酒「ガスバリ」を醸造／平成 24 年 7 月～

津軽海峡観光クラスター会議をきっかけに、函館の料理人で組織する「クラブガストロノミーバリアドス」が復刻させた函館産の復刻米「マツマエ」を使って商品が作れないかという声に、六花酒造が応えたもの。

○三浦醸造（青森市）が「青森りんごとマスカルポーネのフルーツスープ」を製造・販売／平成 25 年～

青森県産りんごに北海道産マスカルポーネチーズを加えた、濃厚でコクのある味わいのフルーツスープを製造した。

○瑠瞳（木古内町）があおもりシードルと木古内産はこだて和牛料理のコラボメニューを販売開始／平成 25 年 7 月～

○函館市のパン・洋菓子製造「パン・エスポワール」が青森市に進出／平成 25 年秋～

○青森銀行、北洋銀行、アークス、新日本スーパーマーケット協会が青函活性化支援で合意／平成 25 年 11 月～

青森銀行、北洋銀行、アークス、新日本スーパーマーケット協会は、青函圏の「食と観光」活性化支援に連携して取り組むことで正式に合意した。これに基づき、平成 26 年 10 月にユニバース主催青函連携展示商談会を函館市で、11 月にラルズ主催青函連携商談会を札幌市で開催するとともに、アークスグループ店頭において「青函フェア」を開催。

○津軽海峡ブランド博の開催／平成 25 年 11 月

平成 25 年 11 月 22 ～ 24 日、青森産業会館で「津軽海峡ブランド博」が開催された。食品加工会社を中心に圏域の 100 以上の企業、団体の出展があり、県内外のバイヤーを招いた商談会や来場者向けの物産販売が行われ、津軽海峡をテーマにしたブランドを売り込んだ。

○北星交通（弘前市）と函館タクシー（函館市）の連携／平成 25 年 12 月～

両社が提携して行っているタクシーチケットの共同利用に加え、お互いの地域の観光パンフをタクシー車内で P R する企画を行った。

また、平成 27 年 7 月～9 月の期間、函館市の相互交通、青森市タクシー協会、弘前ハイヤー協会が加わり、函館のタクシー車内には青森の観光パンフレット（青森県観光連盟提供）を、青森のタクシー車内には函館の観光パンフレット（みなみ北海道観光推進協議会提供）をそれぞれ備えることとした。

○（仮称）青森県・函館デスティネーションキャンペーンの開催決定／平成 26 年 3 月

平成 27 年度末の北海道新幹線新青森・新函館北斗間開業後の平成 28 年 7 月 1 日から 3 ヶ月間、本県と道南地域で、（仮称）「青森県・函館デスティネーションキャンペーン（D C）」が開催されることが決定した。

○青森・函館航路に新造船「はやぶさ」「ブルーマーメイド」が就航／平成 26 年度

青森・函館航路に、新造船「はやぶさ」（青函フェリー/平成 26 年 3 月～）、「ブルーマイメード」（津軽海峡フェリー/平成 26 年 4 月～）が就航した。

○青函コラボスイーツ「ヒトナツノコイ」が販売開始／平成 26 年 4 月～

青森市産のカシスと道南のチーズを使用した青函コラボスイーツ「ヒトナツノコイ」が、青森市の松栄堂から販売された。青函ツインシティ提携 25 周年を記念して、青森商業高校の生徒と菓子店が共同開発したものの。

○FMアップルウェーブ（弘前市）とFMいるか（函館市）の共同企画実施／平成 26 年 4 月～

平成 27 年度末の北海道新幹線開業を契機に、両社共同で「弘前・函館満喫交換日記」というコーナーを持っており、同じ内容を放送している（FMアップルウェーブは毎週土曜日「週末 enjoy ラジオどよナビ！」内 14 時～、FMいるかは毎週日曜日「Sunday Morning Station」内 9 時 45 分～）。お互いの街の魅力を人物や食べ物、場所などにスポットをあて、地元パーソナリティが掘り下げる事で、ガイドブックにはない、地元ならではの楽しみ方を発信している。

○FMいるか（函館市）と弘前のホテルで働くさくらレディー（弘前市旅館ホテル組合）との連携／平成 26 年 4 月～

FMいるかの番組「きて！みて！弘前」（毎週月曜日 15 時 10 分～）という番組に弘前のさくらレディーが電話出演し、りんごのお花見や花火大会、夜宮など、地元の人に愛されているイベント情報などを紹介している。

○「街あるきガイドひろさき 2014」に函館の情報を掲載／平成 26 年 4 月～ [提案番号 25-47]

弘前観光コンベンション協会が発行している「街あるきガイド弘前 2014」に、函館のグルメやお土産情報などを掲載している。

○はちのへ観光復興委員会による旅行商品等の開発／平成 26 年 4 月～

北海道新幹線開業を見据え、函館等も含めた広域的な視点での広域観光ルート、旅行商品の開発に取り組んでいる。

○三圏域連携懇談会による北海道からの誘客促進／平成 26 年 4 月～

○函館グルメサーカスへの出展（平成 26 年 9 月）

北海道新幹線開業に向け、北海道からの観光客来訪及び滞在を促進することを目的に、同イベントの出展ブースを確保し、新規取引拡大等の意欲のある事業者の出展支援を行った。併せて、三圏域（八戸・二戸・久慈）のパフレットやチラシを設置、配布しPRを行った。

○オリジナルPR冊子作成（平成 26 年 12 月発行）

北海道等からの観光客を三圏域（八戸・二戸・久慈）に誘客するためのツールとして、特に 20～30 代の女性に訴求力の高い人気雑誌媒体とタイアップしたPR用オリジナル小冊子を作成した。

○青森銀行、北洋銀行が連携し官民連携ファンドである「青函活性化ファンド」を設立／平成 26 年 5 月～

異なる地域の金融機関が連携する官民連携活性化ファンドは、全国でも初の試み。また、第 1 号案件として函館の老舗五島軒への投資が決まっており、七飯町産・青森産のりんごを使ったロールケーキ「函館ロール」増産のための設備投資等に充当。

○昭和製菓（函館市）青函コラボスイーツ「青函プリン」を製造・販売／平成 26 年 6 月～

青函ツインシティ提携 25 周年を記念して作られたプリン。青森県産りんごと道南産の牛乳が使われている。

○函館西部地区バル街実行委員会が「弘前バル街」に合わせて青森県を訪ねるツアーを企画／平成 26 年 7 月

函館西部地区バル街実行委員会が、7 月 5 日の「弘前バル街」に合わせて函館発着で青森県を訪れる、一般客も参加できるツアーを企画した。

○青森県サイクル・ツーリズム推進協議会の設立／平成 26 年 7 月 [提案番号 25-9]

サイクリング観光に携わる多様な主体を構成員とする「青森県サイクル・ツーリズム推進協議会」を設立し、道南側で開催される「青函圏サイクル・ツーリズム研究会」に参加し、両地域をまたいだサイクル・ツーリズムの推進方策に関する情報共有を行う。

○日の出製麺（北斗市）が青森と函館のツインシティ提携 25 周年を記念した「函館しじみラーメン」を製造・販売／平成 26 年～

檜山産の小麦を 3 割使った麺と、青森産しじみ、田子産にんにくのパウダーやエキスをを使用したスープで、風味と旨味を引き出した新感覚の塩ラーメンを製造した。

■行政

<県>

○道南の生徒への青森の魅力発信事業（総務部）／平成 26・27 年度 [提案番号 25-37]

道南地域の高校生等に青森県における学生生活の魅力を積極的に情報発信することにより、本県への進学を促進し、津軽海峡交流圏内の交流活性化を図る。

○青森県基本計画「青森ブランド」普及促進事業（企画政策部）／平成 26・27 年度

[提案番号 25-28]

青森ブランド推進委員会の知見を活用するなどして、青森の価値（青森ブランド）の発掘などに取り組むとともに、青森ブランドフォーラム等により県民への周知や青森ブランドの磨き上げを行う。また、国内外への情報発信に取り組み、世界が認める青森ブランドを確立する。

○北海道新幹線「奥津軽駅」開業プロモーション事業（企画政策部）／平成 26 年度

[提案番号 25-12、33、44]

北海道新幹線奥津軽いまべつ駅開業獲得に向けた県民の気運醸成を図るため、県内夏祭り等での「奥津軽いまべつ駅」開業プロモーション活動、レールウォークの実施、ポスター・のぼりの制作や、北海道との共同による津軽海峡交流圏マップの作成などに取り組んだ。

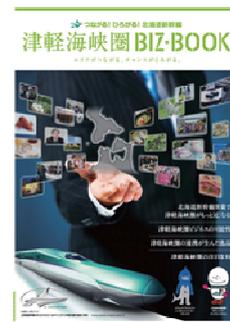
※北海道との共同事業



●魅力ハッケンBOOK



●魅力ハッケンMAP



●津軽海峡圏BIZ-BOOK

○奥津軽いまべつ駅二次交通等整備促進事業（企画政策部）／平成 26・27 年度

[提案番号 25-21]

奥津軽いまべつ駅を起終点とする二次交通の整備推進に向け、二次交通整備推進会議の開催や、交通事業者等に対するヒアリング、二次交通モデル実証事業などを行う。

○津軽海峡交流圏フリーパス構築事業（企画政策部）／平成 26・27 年度 [提案番号 25-39]

津軽海峡交流圏フリーパス事業連絡会議を開催し、関係機関等と連携の上で、既存のフリーパスを活用しながら、圏内におけるフリーパスの一体的な情報発信やPRなどを実施する。

○λ（ラムダ）プロジェクト推進事業（企画政策部）／平成 25・26 年度

北海道新幹線開業を契機とした津軽海峡交流圏の形成に向け、民間委員で構成する「青森県津軽海峡交流圏ラムダ作戦会議」の運営や、北海道・青森県との連絡調整会議、道庁と県庁との共同連携事業等について検討する研究会などを開催した。

○つながる県民プロジェクト事業（企画政策部）／平成 26・27 年度 [提案番号 25-32]

青森県及び首都圏に住む若手県人が互いにゆるやかにつながる仕組みを作り、交流人口の増加や地域資源を最大限に生かした生業づくりにつなげる。

○縄文ムーブメント拡大事業（企画政策部）／平成 26・27 年度 [提案番号 25-28]

遺跡活用の取組を北海道・北東北の 4 道県でネットワーク化し、活用団体の連携活動を促進させるとともに、新たな民間団体の育成を促進させ、遺跡を地域資源として活用する取組の底上げ・拡大を強化する。

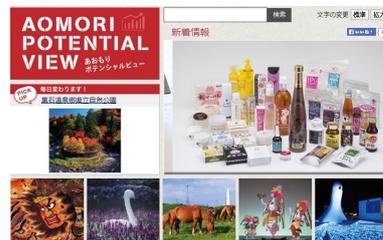
また、遺跡を身近に感じ、より遺跡への関心を高めるため、「観光」の切り口による幅広い層への情報発信イベント、プロモーション活動も継続する。

○「あおもりポテンシャルビュー」構築事業（企画政策部）／平成 26 年度

[提案番号 25-27]

県の「ポテンシャル」を視覚的にも分かり易く、総合的・体系的に把握可能で、市町村別の紹介も各種データと関連付けて閲覧しやすい情報提供サイトを構築・開設し、サイト構築後は、県内外に広く周知・PRを行った。

<http://www6.pref.aomori.lg.jp/p-view/>



○青い森鉄道新需要創造事業（企画政策部）／平成 25・26 年度

[提案番号 25-15]

青い森鉄道沿線の交流人口増加、地域の活性化を図るために、新駅開業及び新型車両導入に合わせた「わ」の娘っこの活用によるプロモーションを実施したほか、鉄道雑誌への記事掲載を行うなど、定期券以外の利用（新需要）増加に向け、戦略的な魅力発信を行った。

○白神山地 21 年目からの保全と活用推進プロジェクト事業（環境生活部）／平成 26・27 年度

[提案番号 25-28]

自然環境情報の蓄積・発信、白神地域の資源を活用した商品・サービスづくりを通じた人材育成、白神山地エコツーリズムに関する情報発信や販売体制の構築など、白神山地に由来する多様な価値を主体的に見つめ直し、暮らしや産業や学術研究等の領域で適切に利用し、再構築していく『白神イニシアティブ』を推進する。

○白神山地エコツーリズム資源可能性調査事業（環境生活部）／平成 26 年度

[提案番号 25-28]

白神山地の自然や里山の暮らしなどの「白神の恵み」を体感できる 1～2 時間程度の散策の場の整備や体験メニューづくりについて可能性調査・設計を実施した。

○青森県特別保証融資制度貸付金「未来を変える挑戦資金」（商工労働部）／平成 26・27 年度

県の推進する戦略等に基づく重点推進分野に属する事業（観光客等の交流人口の増加に伴う経済効果の県内への波及に資する事業等）を含む前向きな取組を行う県内中小企業者に対し、長期かつ低利で資金調達を可能とする特別保証融資制度を実施している。

○新幹線開業効果活用型地域産業創出事業（商工労働部）／平成 25・26 年度

北海道新幹線奥津軽いまべつ駅開業を見据え、開業効果活用産業創出フォーラムを開催し、中小企業者に対して新幹線開業効果を活かした地域の取組気運の醸成を図るとともに、地域産業創出ワークショップを実施し、新商品・サービスの開発、県外への PR 強化と販路開拓に対して支援した。

○青函連携「食と観光」タイアップキャンペーン事業（農林水産部）／平成 26・27 年度

[提案番号 25-13]

平成 27 年度末の北海道新幹線開業に向けて、青森と道南が一体となった青函圏等での食と観光に係るプロモーションを展開し、県産品の情報発信や本県への観光誘客促進を図る。

○観光おもてなしブラッシュアップ事業（観光国際戦略局）／平成 26・27 年度

[提案番号 25-19]

北海道新幹線開業に向けて、観光客へのおもてなし向上を図る取組を行うとともに、外国人観光客に分かりやすい観光看板等の多言語化を図る。

○観光マインドアップ事業（観光国際戦略局）／平成 26・27 年度

[提案番号 25-13]

北海道新幹線開業を意識づけ、その意識づけにより県民一人ひとりが観光客の受入れに対するおもてなしの心を醸成する。

○青森県・函館誘客促進プロモーション事業（観光国際戦略局）／平成 26・27 年度

[提案番号 25-13]

J R 東日本が実施する「重点販売地域指定」と連携し、本県及び道南エリアの魅力を紹介する観光キャンペーンへの参画やキャラバンの実施、東京駅を青森県一色に染める東京スーパージャックの実施等により、本県の認知度向上と誘客促進を図る。

○東アジア・ASEAN向け情報番組制作事業（観光国際戦略局）／平成26・27年度

[提案番号 25-13]

北海道新幹線開業を見据え、本県の認知度・知名度を向上し、誘客拡大を図るため、本県及び函館の観光の魅力を紹介するPR番組を制作し、東アジア・ASEAN諸国で放送する。

○青函広域観光推進事業（観光国際戦略局）／平成25・26年度

[提案番号 25-13]

本県及び道南地域への誘客促進を図るため、首都圏等の商品造成担当者を対象としたモニターツアーや、本県及び道南地域の観光資源を旅行商品造成担当に対してセールス活動などを行った。

○青函サイクル・ツーリズム魅力発信事業（観光国際戦略局）／平成26年度

[提案番号 25-9]

北海道新幹線開業の機会を活かした新たな旅行客の獲得を図るため、自転車を活用した周遊・滞在型観光コンテンツの充実を図るとともに、サイクリングに関する一体的かつ強力な情報発信に取り組んだ。

○アレコ青函ソウル共感力創造事業（観光国際戦略局）／平成26・27年度

[提案番号 25-13]

北海道道南地域との舞台芸術を通じた地域間交流の促進を図るため、青森・函館等の出演者による舞台作品を制作し、青森県立美術館アレコホールで上演する。

○北海道新幹線「奥津軽駅」開業に向けた戦略展開事業（東青地域県民局）／平成26・27年度

[提案番号 25-7]

北海道新幹線奥津軽いまべつ駅開業効果を最大限に獲得するための地域資源活用具体化に向けた検証及びPRイベント等の実施、観光客の受入れに向けたおもてなし講演会の開催、津軽半島全体の情報発信に向けたパンフレット作成、魅力あるお土産づくり等を行う。

○北海道新幹線「奥津軽駅」開業効果に向けた観光拠点化モデル事業（東青地域県民局）／平成26・27年度

[提案番号 25-4]

北海道新幹線奥津軽いまべつ駅開業効果を上磯地域全体で獲得するため、外ヶ浜町平館地区をモデル地区としてワークショップによる地域資源の発掘・磨き上げ、情報発信素材の収集等を行う。

○道南と津軽・夏泊・下北半島との連携促進事業（東青地域県民局）／平成 25・26 年度

[提案番号 25-37]

道南地域と津軽・夏泊・下北半島との交流・連携を図るため、地域づくり活動団体等のネットワーク構築、交流・勉強の開催を行った。

○上磯地域のグリーン・ブルー・ツーリズム促進支援事業（東青地域県民局）／平成 26 年度

[提案番号 25-2]

平成 27 年度の北海道新幹線奥津軽いまべつ駅開業を見据え、グリーン・ブルー・ツーリズム実践者の開拓と育成や里と海の連携による受入態勢づくりを進めるとともに、現地発着型の体験メニュー開発や道の駅等との連携による販売システムをつくった。

○白神の食めぐり観光促進事業（中南地域県民局）／平成 25・26 年度 [提案番号 25-28]

白神山地への更なる誘客促進を図るため、食をテーマとした観光コースを設定し、モニターツアーの実施を通じて検証・ブラッシュアップなどを行った。

○三陸復興国立公園の新たな魅力発信事業（三八地域県民局）／平成 26・27 年度

[提案番号 25-28]

三陸復興国立公園の知名度向上による観光振興を図るため、新たな魅力を提案する観光ルートづくり及びトレッキングイベントによる PR・情報発信を行う。

○北海道新幹線開業に向けた津軽半島北部エリア観光推進事業（西北地域県民局）／平成 26・27 年度

[提案番号 25-7]

北海道新幹線開業を契機として、津軽半島北部エリアへの観光客入込数の増加を図るため、観光コンテンツの発掘・磨き上げと新たな観光ルートのモデル実証や情報発信の強化に取り組み、奥津軽いまべつ駅を活用した津軽半島北部エリアの周遊観光商品の造成を目指す。

○体感する小川原湖推進事業（上北地域県民局）／平成 26・27 年度

[提案番号 25-2]

カヌーやカヤックといった「アクティビティ」を中心に据えながら、湖周辺の温泉や食といった観光資源を組み合わせた健康的なコンテンツを県内及び近県のファミリー層向けに開発・PRし、上北地域のコンテンツとしての認知度向上を図る。

○道南地域からの上北地域誘客促進事業（上北地域県民局）／平成 25・26 年度

[提案番号 25-13、28]

上北地域への誘客に有効な資源、ターゲットとすべき年代などの基礎資料とするため調査を実施したほか、旅行会社に旅行商品造成の促進を図るとともに、道南地域において情報誌への広告掲載及びイベントでのPRを行った。

○下北「海の道」の魅力発信事業（下北地域県民局）／平成 26 年度 [提案番号 25-20]

海上交通を活用した下北半島への交流人口拡大を図るため、ワークショップ等の開催やモニターツアーの実施などにより、地元の機運醸成と観光コンテンツの磨き上げ及び観光ルートの開発を行った。

○台湾から来さい下北推進事業（下北地域県民局）／平成 26・27 年度 [提案番号 25-20]

下北地域の観光関係者を対象とした台湾勉強会を開催し、受入態勢の構築を行うとともに、下北と台湾の交流等をテーマとしたフォーラムを開催し、地域住民の意識啓発・気運醸成を図る。また観光客ニーズに合ったモデルコースを構築し、台湾向け観光PRパンフレット等を作成、台湾への観光PRセールスを実施する。

<市町村>

- 津軽海峡ブランド博開催事業（青森市、平内町、今別町、外ヶ浜町、蓬田村）／平成 25 年度～

東北新幹線の開業効果の持続・拡大と北海道新幹線開業との相乗効果を獲得するため、東青地域及び道南地域の市町村、経済団体及び事業者等が連携し、特産品の販売、商談会及び広域観光のPR活動を行う。

- 青函圏観光都市会議（青森市、弘前市、八戸市、函館市）／平成 25 年度～

[提案番号 25-35]

県内三市（青森、弘前、八戸）に函館市を加え4市で組織する「青函圏観光都市会議」において、平成 27 年度において、4市のマラソン大会を活用した「2015 青函圏マラソンラリー」を開催する。また、平成 28 年度に「（仮称）青函圏博覧会」を開催する予定となっており、平成 27 年度から首都圏等において、その事前PR活動を実施する。

- 北海道新幹線新函館開業対策事業（弘前市）／平成 26 年度

弘前駅自由通路等を活用した旅行者の歓迎事業や弘前駅自体の賑わいを創出する事業に対して補助した。

また、はこだてクリスマスファンタジーひろさきナイトでの弘前市のPR活動（H23～）や、函館市と連携した首都圏等（大宮、札幌、函館）PR（H24～）などを行った。

- 種差海岸らくらくサイクル事業（八戸市）／平成 25 年度～

[提案番号 25-22]

電動アシスト自転車によって種差海岸エリア内を自由に散策できるようにし、エリア内移動の利便性・回遊性の向上を図ることで来訪者の満足度を高めることを目的として、電動アシスト自転車のレンタサイクル事業を行う。

- 五所川原まるごとPRキャラバン事業（五所川原市）／平成 25 年度～

五所川原市の知名度向上及び誘客促進を図るため、県外へのキャラバン事業を展開。平成 27 年度は、函館市で開催する函館グルメサーカス 2015 に参画し、観光物産PRを行う予定。

○津軽半島地域活性化促進事業（五所川原市）／平成 26 年度

○「津軽半島の魅力発見！あなたが写す津軽半島フォトコンテスト」開催事業
津軽半島地域が持つ魅力を地域住民が再認識し、新たな地域資源を掘り起こすためにフォトコンテストを開催した。入賞作品については、圏域内において順次、展示会を開催し、地域住民に対して啓発を促した。

○津軽半島PR広告掲出事業

津軽半島のPRを図るため、訴求力ある仕掛けとして、上記フォトコンテストの入賞作品を素材として活用したPR広告を作成し、特急列車車内、新青森駅電光掲示板、東京モノレール車内、東北・上越・長野新幹線車内及び各新幹線主要駅へのPRポスター等を用いた広告掲出を行い、広域的かつ効果的に津軽半島地域への誘客を図る情報発信活動を行った。

（事業主体は津軽半島振興対策促進協議会）

○七戸十和田奥入瀬シャトルバス運行事業（十和田市、七戸町）／平成 24 年度～

[提案番号 25-21]

七戸十和田駅から奥入瀬溪流・十和田湖の入り口である焼山までシャトルバスを運行する。（事業主体は七戸十和田奥入瀬シャトルバス運行協議会）

○十和田地産品PR活動隊（十和田市）／平成 26 年度

十和田市立南小学校の6年生が修学旅行先のJR函館駅構内で、十和田市の地場産品の無料配布等を行い、PR活動を行った。（平成 26 年 6 月 20 日）

○函館グルメサーカスへの参加（三沢市）／平成 25 年度～

ゆるキャラやキャンペーンガール等による観光PR及びご当地グルメ（パイカ料理、チーズロール）を出店する。

○旅行エージェントへのプロモーション（三沢市）／平成 25 年度～ [提案番号 25-13]

函館市及びその周辺の小学校からの修学旅行受入れを中心としたプロモーション活動を行う。

○函館・東北チャリティプロモーションへの参加（三沢市）／平成 25 年度～

「函館・東北チャリティプロモーション」に参加して、三沢市の名産・名品の販売や観光情報の提供を行い、当市の魅力発信のもと北海道地域からの誘客を図る。

○下北半島観光フォトスポットPR事業（むつ市）／平成26年度～

下北半島各地の絶景フォトスポットを下北観光協議会ホームページや観光案内板、雑誌等で紹介するとともに、“下北半島へ写真を撮りに行こう”をテーマにフォトコンテストを開催する。初年度はフォトコンテストの実施、フォトスポット案内板の設置等を行い、27年度は4月よりフォトコンテスト一次審査通過作品をHPで紹介し、最終審査実施後の9月以降は入賞作品の展示等により観光PRを行う。

（事業主体は下北観光協議会）

○むつ市夜景観光推進事業（むつ市）／平成25年度～

夜景を活用した観光は、域内での宿泊を伴う確率が高まり、むつ市が持つ他の魅力である「食」「温泉」と連動させることにより、極めて効果的な滞在型観光プログラムとして、交通、宿泊、飲食等の観光関連産業への波及効果が期待できることから、夜景鑑賞施設である釜臥山展望台の機能充実、全国への情報発信やプロモーション活動を行い、誘客を促進し、地域の活性化に結びつける。平成27年度は、宿泊施設との連携によるスタンプラリー（8～11月）を実施予定。

○平川市誘客促進助成金事業（平川市）／平成26年度～

県外からの10人以上の市内宿泊を伴う企業等の大会・会議・研修・報奨旅行・スポーツ合宿等における市内公共施設使用料を助成する。

○夏泊半島ブルーロードライド（平内町）／平成26年度～

夏泊半島活性化のスポーツイベントとして、色彩豊かな平内町に全国の自転車愛好家を招き、自然と伝統が一体となった夏泊半島独自の文化を知ってもらうとともに、地元の方とのふれあいを通じて地域振興に寄与し、「自転車」を利用しての健康増進やスポーツレクリエーションの機会を提供する。

○ハクチョウのまち再生（平内町）／平成25年度～

[提案番号 25-28]

渡来のハクチョウが特別天然記念物に指定されているところは、全国で当町の「小湊のハクチョウおよびその渡来地」が唯一である。この渡来地の美しい景観と自然環境を後世に守り伝えるため、住民意識の醸成を図り、活動の輪を広げるため、ハクチョウのまち出前講座、ハクチョウ検定などを行う。

○まるごとPRキャラバン事業（今別町）／平成26年度～

観光客をひきつける魅力を継続的、強力に発信していくため、道南エリアに向けキャラバンを展開して誘客促進と今別町の知名度向上を図り、「荒馬のある今別町」「今別町のある青森県」「北海道新幹線駅の今別町」を目指す。協働参加市町村は、五所川原市、中泊町、今別町の1市2町。

○道の駅たいらだて「Oh!だいば」周辺散策マップ配布（外ヶ浜町）／平成 26 年度～

[提案番号 25-4]

「道の駅たいらだて」には、平館灯台、平館台場跡など、歩いて巡ることができる地域資源が密集していることから、各地域資源の説明書きなどが記載されたマップを配布し、来訪者が楽しめる情報発信を行う。また、平館地区の食堂、温泉のマップをパンフレットにまとめる。

○北海道新幹線開業対策津軽半島連携事業（中泊町）／平成 26 年度

町のゆるキャラの製作とPRを行った。また、函館市において、五所川原市と今別町と連携し各市町の特徴を活かしたPR事業を行った。

○北海道新幹線開業対策にぎわう駅ナカビジネス創造事業（中泊町）／平成 24 年度～

津軽中里駅の駅ナカにぎわい空間を活用し、コミュニティカフェ、観光案内、特産物直売、駅ナカミュージアムを地元の元気な「かっちゃん」たちが中心となり運営する。観光客や地域の住民が集うことを目的に四季のイベントや加工品を開発して、駅ナカをにぎやかにしていく。

○北海道新幹線開業対策徐福来町伝説・津軽海峡連携PR事業（中泊町）／平成 26 年度

北海道新幹線開業を控え、地元より徐福来町伝説をPR・発信する活動と、北海道道南の函館市のイベント（はこだてグルメサーカス）に参加し地元の特産物と津軽伝統金多豆蔵人形芝居を活用した「津軽弁と津軽人」をPR・発信する活動の事業を行った。

○函館グルメサーカスへの参加（七戸町）／平成 26 年度～

北海道新幹線開業に向けて、関東圏のみでなく道南との交流や当町PRを目的に函館市で開催される函館グルメサーカスに参加するもの。町のみどころや特産品の紹介を中心に行う。

○観光客誘客促進による地域活性化推進事業（大間町）／平成 25・26 年度

札幌市内での観光PR、ラジオ番組出演によるPR、エージェント等へのPR活動や、東北地域等の観光施設へのポスター掲示やテレビ、ラジオ番組でのイベントの告知活動を行った。

○圏域内ネットワーク強化によるゴールデンルート構築事業（佐井村）／平成 26 年度

道南地域観光関係者並びに旅行者をモニター招請し、観光コンテンツの有効な検証を行い、観光プログラムの商品化に向けて取り組んだ。併せて、交流地域内の活性化、交流人口などの拡大を図った。

○町内巡回バス運行事業（階上町）／平成 26 年度～

三陸復興国立公園指定を受け、階上駅から町内主要施設を巡回するバスを運行することで受け入れ態勢の整備をし、もって県内外へ町の特産品や観光を広くPRするとともに交流人口の拡大を図る。（平成 27 年度の運行期間は 4 月～11 月の第 2、第 4 日曜日）

